

兵庫県のマメゾウムシ

(兵庫県甲虫相資料. 118)

高橋 寿郎

マメゾウムシ科 (Bruchidae) は豆科植物の種子を食として農林業上に重要な害虫として知られているものを割合ふくむ小形のグループであるが自然界での採集は比較的やりにくいのか県下における産出記録も大変少い。最近イロハモミジの花から従来県下ではほとんど記録のなかったチャバラマメゾウムシが多数得られたのでこの際このグループの県下に於ける分布状況に就いて現在わかっている範囲でまとめておいた方が良くと考えここに報告することにした。非常に材料が少ないので今後大いに調査する必要があるかと思われる (例えば神戸港などで輸入植物について入って来てその場で採られたり、そのまま密入国したりする種があると思われるがこの様な点は吾々アマチュアでは情報が把握し難いので全く手づかずになったままである。例として神戸植物防疫所で発見されたマメゾウムシとしてブラジルマメゾウムシ^{*}、エンドウゾウムシ、ソラマメゾウ、インゲンマメゾウムシ^{*}、アズキゾウムシ、ヨツモンマメゾウムシ、モモトマメゾウムシ^{*}が挙げられている。*印日本に分布しない種。梅谷, インセクタリウム, 18巻, 1号, 1981)。

この類の分類には中條道夫博士による名著“日本動物分類, 豆象虫科。(1937)があり、その後原色昆虫大図鑑に中根猛彦博士が解説を試みられたものがある(1963)。同定に就いてはこの二書によったが筆者の浅学のため誤りがあるかも知れない。その点御教示御叱正を得られるならば幸いである。

また桐谷圭治博士による“マメゾウムシ科生態と害虫化 (I, II), 新昆虫, 9巻, 5号, P. 2-7, 9巻, 6号, P. 7-11, 1956。なる論文はこのグループの生態に関して大変得る所が大きく、さらに梅谷献二博士が“マメゾウムシの生物学。”と題するシリーズでインセクタリウム 18巻, 1号~11号, 1981に発表になられている論文は色々の角度からのマメゾウムシに関する検討を加えられた、これまた欠くことの出来ない貴重な論文である。

Family Bruchidae マメゾウムシ科

1. *Bruchus pisorum* (Linné, 1758) エンドウゾウムシ

Linné氏により Europe産で *Dermestes* 属として記載された (Syst. Nat. X. P. 356, 1758)。日本からは Sharp氏により “Yokohama. One. example.”

Bruchus pisi Linné として記録されている (Ann. Mag. Nat. Hist., 5, XVII, 97, P. 34, 1886)。エンドウの大害虫であり広く全世界に分布する種として知られており明治年間の侵入害虫と云われている。県下での記録も広くあるが多くいると云うような具体的な報告は今の所無いようである。桐谷博士によると未熟豆でしか育ちえないのでその地方の気候条件(特に冬季)が生存を許しても寄生植物の栽培が行われていなければ分布定着できないとされておられる。また越冬はじめでは脂肪体の量は乾燥重量の35%に当るが越冬期間中に徐々に減少し5月終りには22%になりこの時期にこの虫の豆畑での個体数が最大になるとされ、交尾は成虫が数日間摂食した後におこる。従って産卵は豆の花上に成虫が現われてから4日以上たたないとおこらないとされている。本種は一つの豆に一頭しか育たないとも記しておられる。

産地：津名郡五色町下塚〔堀田, 1978〕* 川西市笹部〔仲田, 1978〕。宍粟郡音水 (1 ex., 11-VI-1972, 1 ex., 24-VI-1973)。多紀郡〔鈴木, 1961〕。水上郡〔山本, 1958〕。城崎郡日高町日置〔高橋, 1975〕。

2. *Bruchus rufimanus* Boheman, 1833 ソラメゾウムシ

Egypt産で記載された種のものである (in Schönherr, Gen. Curcul., P. 58, 1833)。

大正15年(1926)に熊本県下のソラメ畑で発見されたのが日本では最初の記録で、たちまち南日本一円に広がり、大きな害を与えた。おそらく大正10年(1921)ころにアメリカまたはイギリスから侵入したものと考えられるとのこと(梅谷, 1981)。

休眠して越冬した成虫は3月下旬頃から活動をはじめ、花粉や花蜜を食べながらインゲンにサヤが出来るのを待ち、サヤが3 cm位になるとその表面に1個づつばらばらに産卵する。産卵の時期は西日本では4月上旬~5月中旬。卵は10日ほどで孵化し卵から外に出ることなく卵の下側からすぐサヤを通して小さい豆の中に小部屋を作り、表皮の内側に羽化するときの出口用に丸く切れ込みをつけて蛹になる。成虫は7月下旬から10月初めに羽化してくるといのがこの虫の生活史の概略である。

ソラメの害虫として良く知られその分布は中・南部ヨーロッパ、西部アジア、アメリカ、アフリカ等ほとんど全世界で日本では本州、四国、九州とか隣の朝鮮にいるが案外県下での記録が余りない。恐らくもっと広く分布しているのではないかと思われ注意が足りないのだろうと思っている。図説は中條(1937, 1950)、中根(1963)両博士のものがある。

*産地で〔 〕の中のものゝ記録からの引用。()のものは筆者採集標本所有のもの。

産地：川西市大和〔仲田，1978〕，多紀郡〔鈴木，1961〕，氷上郡〔山本，1958〕，
豊岡市愛宕山〔高橋，1975〕，養父郡氷の山（1 ex.，27-VII-1956）。

3. *Sulcatobruchius sauteri* (Pic, 1927) ザウテルマメゾウムシ

Pic氏によって台湾，港口産で *Bruchus* 属で記載された種である (Ent. Mitteil.,
XVI, 4, P. 248, 1927)。

台湾特産種としてされていたが現在は本州，四国にも分布していることがわかっているよう
である。本州からの一番初めての記録はどれなのか一寸わからないが1962年穂積俊文氏が三
重県湯ノ山温泉のカエデの花から多数採集したと報告しておられ (昆虫学評論, XV: 16,
1962)，また栗の花でも得られていると記録された (月刊むし, 7: 32, 1971)。

県下での記録は鳥羽で採集した1頭があるのみだがどの様に採集したか筆者の不注意で記録
が残っていないのでわからない。

図説は中條 (1937)，中根 (1963) 両博士のものがある。

産地：多可郡鳥羽 (1 ex.，1-VI-1975)。

4. *Callosobruchus ademptus* (Sharp, 1886) チャバラマメゾウムシ

Sharp氏が "One example was found at Yuyama, May 10,
1881, and a second, in which the variegation of the
upper surface is much less conspicuous, at Nagasaki."
として *Bruchus* 属で記載された種である (Ann. Mag. Nat. Hist., 5, XVII, 97,
P. 36, 1886)。

中條博士は日本動物分類，豆象虫科の中で神戸産の標本 (データ無し) で図説しておられそれ
以後あまり採集されなかったが1980年カエデの花を網ですくうと多数が入って来た。今の
所神戸市内と家島だけで知られているがもっと分布は広いのではないだろうか。

産地：神戸〔中條，1937〕，山の街 (1 ex.，7-VI-1959)，島原 (1 ex.，3-V-
1979, 1 ex.，18-V-1979, 3 exs.，18-IV-1980, 3 exs.，19-IV-1980,
10 exs.，21-IV-1980, 8 exs.，22-IV-1980, 2 exs.，23-IV-1980,
3 exs.，24-IV-1980, 6 exs.，26-IV-1980, 1 ex.，27-IV-1980,
23 exs.，1-V-1980, 2 exs.，3-V-1980, 5 exs.，4-V-1980, 1 ex.，
7-V-1980, 1 ex.，12-V-1980, 2 exs.，14-V-1980, 2 exs.，17-
V-1980, 1 ex.，19-V-1980, 1 ex.，27-V-1980, 1 ex.，12-VIII-1980,
1 ex.，26-VIII-1980, 2 exs.，14-V-1981)。飾磨郡家島 (1 ex.，26-V-

1978).

5. *Callosobruchus chinensis* (Linne, 1875) アズキマメゾウムシ

支那から *Curculio* 属で記載された種であるが (Syst. Nat. X, P. 386, 1857), 日本からの記録は Motschulsky 氏が *Bruchus adustus* として記載された種がこの種に当る (Bull. Soc. Nat. Hist. Moscou, XLVI. P. 228, 1873). Harold 氏が Japan から *Mylabris* 属で記録されている (Deutsche Ent. Zeitschr., XXII, 1, P. 86, 1878).

分布は本州, 四国, 九州, 琉球, 朝鮮, 台湾, 支那から温熱帯地域に広く分布してアズキの大害虫として有名である。

野外でのアズキやササゲの畑にも豆が完熟後に飛来して産卵することがあるが畑の害虫として問題になることはなく, この虫は屋内型のマメゾウムシで貯蔵豆に飛来して産卵した時ネズミ算的に増加して大量の豆を駄目にする。従って日本では貯蔵アズキやササゲの最大の害虫となっている。その関係からか自然界での採集はそれ程出来なく記録も思った程多くない。恐らく県下にも広く分布している種と考えられる。

産地: 三原郡福良〔久松, 1973〕, 川西市見野, 笹部〔仲田, 1978〕, 神戸市二十歩 (3 exs., 8-IX-1957), 鳥原 (1 ♀, 7-VIII-1982), 多紀郡〔鈴木, 1961〕, 氷上郡〔山本, 1958〕, 城崎郡円山川堤〔高橋, 1975〕, 美方郡扇の山〔辻, 岸田, 1972〕。

6. *Bruchidius comptus* (Sharp, 1886) シロモンマメゾウムシ

Sharp 氏により *Bruchus* 属で "Kobe, June 8, 1881; Hosokute, July 22, 1881. Three examples." の標本で記載された種である (Ann. Mag. Nat. Hist., 5, XVII: 97, P. 36-37, 1886).

中條博士によって G. Lewis 氏採集の本州上市産の図説がある (1937).

大変小さい種 (体長, 1.4~1.5 mm.) で県下からは Sharp 氏の記録以後全く知られていない。

産地: Kobe [Sharp, 1886]。

7. *Bruchidius dorsalis* (Fahraeus, 1839) サイカチマメゾウムシ

Fahraeus 氏により印度ベンガル地方産で *Bruchus* 属で記載された種である (in Schönherr, Gen. Curcul. V, P. 98, 1839).

日本からは G. Lewis 氏採集の新潟産を Roelofs 氏が *Bruchus* 属の種として記録されたものである (Ann. Soc. Ent. Belgique, XXIV, P. 30, 1880).

分布は本州, 九州, 台湾, 満州, 支那, 印度等であり, サイカチの実につく種でこの仲間としては体の大きい (体長 5.5 mm 内外) 種である. 図説は中條 (1937, 1950), 中根 (1963) 両博士のものがある.

県下での記録がほとんどない. よく調べて見なくてはならないと考える.

産地: 神戸市山の街 (1 ex., 31-VI-1959).

8. *Bruchidius japonicus* (Harold, 1878) サムライマメゾウムシ

Harold 氏により Hiller, Reinhold 氏が萩で採集されたもので *Mylabrius* 属として記載された種である (Deut. Ent. Zeit., XII, 1, P. 87, 1878).

日本固有種とのことであるが (分布は北海道, 本州, 四国, 九州), 加害植物など生態に就いて良くわからないようである. 体は小さい (体長 2.5 mm 内外) が割合はっきりした上翅上に斑紋を有している. 図説は中條 (1937, 1950), 中根 (1963) 両博士のものがある. 県下でも記録がほとんどない種である.

産地: 宍粟郡波賀町音水 (1 ex., 15-VII-1973).

9. *Bruchidus terreus* (Sharp, 1886) ネムノキマメゾウムシ

Sharp 氏により *Bruchus* 属で "Yokohama, Nagasaki, Ichiuchi, and Yuyama. Five examples." の産地で記載された種である (I. C., P. 35, 1886).

本種も日本固有種とのことで本州, 九州に分布していると云われている. 中條博士は神戸税関でネムノキの種子から発見された3頭 (種子は松本市の産であり, 暫く京都の種苗店で貯蔵されていたもの) を検したことを記録されると共に図説をされている (1937). 中根博士の図説もある (1963).

ネムノキとニセアカシアの実につくと云われているが筆者は該当種未採集である.

産地: 川西市笹部 [仲田, 1978].

10. *Bruchidius urbanus* (Sharp, 1886) シリアカマメゾウムシ

Sharp 氏により *Bruchus* 属で "Nagasaki. Two specimens of the typical form and one of the variety." (G. Lewis 氏採集品) の標本で記載された (I. C., P. 35-36, 1886).

日本固有種と云われていて本州, 九州に分布している. ニセアカシアから得られるとあり,

穂積俊文氏は谷汲、閨菟溪谷のカエデの花から採集出来たことを報告しておられる（月刊むし、7:32, 1971）。やや大きい（体長3.5mm内外）種であるが県下では両端からの記録があるのみであるがもっと産地は他にもあると考えられる。

産地：川西市笹部〔仲田, 1978〕。相生市三濃山（1ex., 3-V-1969, 1ex., 20-V-1973, 1ex., 6-V-1973）。

11. *Kytorhinus sharpianus* Bridwell, 1932 シャープマメゾウムシ

Sharp氏がG. Lewis氏採集になる神戸産1♂（Kobe, June 8, 1881; a single male example.）で新属新種として*Pygobruchus scutellaris*と命名記載された種である（Ann. Mag. Nat. Hist., 5, XVII, 97, P. 38, 1886）。その後J. C. Bridwell氏により*Kytorhinus*属に移された。ところが*Kytorhinus*属には*K. scutellaris* Motschulskyなる種があったのでこの種に*K. sharpianus*なる名を与えられたのである（Proc. Ent. Soc. Washigton, XXXIV, P. 106, 1932）。

日本固有種で中條博士は青森県産1♂, 岩手県産1♀を検されると共に図説をしておられる（1937, 1950）。

県下では氷上郡で記録があるが筆者は未採集である。

産地：Kobe〔Sharp, 1886〕。氷上郡篠ヶ峯〔山本, 高橋, 1962〕。

以上兵庫県産のマメゾウムシ11種を記録した。現在の日本産のマメゾウムシ類は23種位（中根, 1972）であるから半数をも記録出来ていないわけである。調査が不充分であることを痛感する。大方同好者の御教示御叱正を頂ければ幸である。

（Ⅷ - 1982）

ベニシジミの冬季の活動記録

最近の暖冬異変は、蝶の生活にも大きな影響を与えているようである。成虫で越冬する蝶が暖かい日に活動することはよくあるが、筆者は下記のようにベニシジミの冬季における活動を観察しているので報告しておく。

1. 観察場所 洲本市安乎町北谷
2. 観察年月日 ア, 1981年12月28日（数頭） イ, 1983年1月3日（1♂）

なお、1983年1月3日に観察した個体は新鮮な♂で、オニノゲシの花に飛来して約10分間吸蜜していた。

（堀田 久）